



はじめに

人と自然の博物館（ひとはく）は当年度も、調査・研究、生涯学習支援、地域の活性化、シンクタンク活動など、多方面で精力的に取り組んでまいりました。

調査・研究活動の一環としては、兵庫県丹波市と丹波篠山市に分布する篠山層群から採取された岩砕から化石を取り出す「化石剖出ボランティア」や「石割調査ボランティア」の募集を継続し、人材育成に取り組むとともに恐竜化石関連の研究活動を推進しました。資料・展示については、県内に生息する貴重な動物とその生息環境の自然を紹介する展示特別企画「ひょうごのレッドリスト展 ～哺乳類・爬虫類・両生類・魚類～」や、当館の収蔵資料を活用したコレクション展「石ころズラリ～美しい鉱物から珍しい岩石まで～」を開催したほか、普段は見るできない資料をテーマ毎に蔵出しする収蔵資料スペシャル企画「標本のミカタ～コレクションから新しい発見を生み出す～」を全8回開催するなど、標本・資料の積極的な活用を図りました。また、自然史系の他館と連携した「自然史レガシー継承・発信事業」による館外企画展「Where Culture Meets Nature ～日本文化を育んだ自然～ JAPAN COLOR」を、ICOM（国際博物館会議）にあわせて京都市にて開催しました。教育普及活動の一環としては、国際花と緑の博覧会記念協会、台湾台北市立動物園、台北動物保育教育基金會とともに「高校生のための生き物調査探検ツアー in 台湾」を実施しました。さらに、エコロジー感覚とふるさと意識を身につけた子どもを育てる県の事業「ふるさと兵庫子ども環境体験推進事業（ひょうごエコロプロジェクト）」の支援を開始し、幼稚園・保育所への研究員の派遣や、県立公園での自然体験プログラムを提供しました。

兵庫県では、少子高齢化の進展や人口減少、東京一極集中の是正等の構造的な課題に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を構築していくため、地域創生に向けた取り組みが進んでいます。その中で、ひとはくの果たす役割はますます重要になってきており、地域の自然や文化に関する資料の収集や研究はもちろんのこと、それらを活用した環境学習や地域活性化を支援する組織として、今後も活動を推進してまいります。

新型コロナウイルスの蔓延により、これまでの社会とは異なる状況を迎えようとしています。このような中、開館から28年目を迎えますが、博物館を様々な面で支えていただいた皆様に心からお礼申し上げますとともに、今後とも成熟した博物館として社会に貢献し続けられるよう、厳正なご批判と、有益なご指導をいただければと期待いたします。

兵庫県立人と自然の博物館
館長 中瀬 勲